

はじめに

私たちの暮らしにおいて、新型コロナウイルス感染症対応は2年が経過しました。全世界が今まで経験したことのない状況に見舞われ、現在も深刻な影響を及ぼし続けています。「With コロナ」から「新しい生活様式」を余儀なくされ、日常生活から働き方まで様々な制限を受けざるを得ません。学校生活においても特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生活を一変させてしまいました。これらは当然、授業や学校行事に大きな影響をもたらしています。

このような状況の中、社会はデジタル化が進み「新しい生活様式」と相まって人々の考え方や働き方などを転換させました。国が進める GIGA スクール構想により機器等の環境整備が整い、ICT 活用によるオンライン授業や課題解決のためのタブレットの活用から、学習の保障ができるようになり、教師の授業の工夫にも大きな変化が見られます。

この間、福島県教育委員会では、令和3年12月7日（火）に県の政策調整会議において「第7次福島県総合教育計画」を決定しました。個人と社会の Well-being の実現に向けて「福島ならではの」教育の中に、学びのセーフティーネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくり、「地域で共に学び、共に生きる共生社会の形成に向けた特別支援教育の充実」が示されました。当センターにおいても本県特別支援教育が目指す理念である「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進のために研究や教員研修及び教育相談等、各事業に取り組んで参りました。

本研究紀要では、令和3・4年度プロジェクト研究「児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同学習」並びに令和3・4年度教育研究「特別支援学校における ICT の効果的な活用の在り方」について報告いたします。

さらに長期研究員4名が、小学校の協力を得て進めて参りました研究の成果について報告いたします。

ぜひご高覧いただき、今後の特別支援教育の推進と共生社会の形成のために、当センターの研究及び事業等について忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、研究にご協力いただきました研究協力校の皆様並びに関係機関の方々に心より感謝と御礼を申し上げます。

令和4年3月

福島県特別支援教育センター 所長 西牧 辰典